イングリッシュプラスが運営する

バンビバイリンガル幼児園

が新聞に掲載されました!!

2010年(平成22年)9月7日　火曜日　13版　第2山梨

第3種郵便物認可　朝日新聞

現場発! 育・学

3―6歳児保育に英語

南アの「バイリンガル幼児園」を訪ねた

就学前の段階で、英語を採り入れている保育施設がある。来年度からは小学校の高学年で、「外国語（英語）活動」が必修科目になる。子どもたちは、どのような生活を送っているのか。南アルプス市徳永にある「バンビバイリンガル幼児園」を訪ねた。（岩城興）

歌や言葉遊び通じて吸収

「グッド・モーニング」。午前10時過ぎ、「朝の会」が始まった。年長の「フォレスト（森）組」。園児25人が四つの班に分かれ、席に着いた。

園には縦割りのクラス活動もある。一緒に工作をする年少から年長までの子どもたち。上の子が下の子の面倒をよくみるという

「フェア・イズ・○○チーム？（○○班のみなさん、どこですか）」。担任の米国人、メロニー先生が呼びかけると、子どもたちから一斉に「アイム・ヒア（ここです）」と元気な返事。メロニー先生は「ハウ・アー・ユー？（ご機嫌いかが）」と、各班をまわり、一人一人と言葉を交わしていく。

次に先生は短い歌を自分で歌って聞かせ、問いかけた。「どんな言葉が聞こえた？」。子供たちは次々に手を挙げ、「sunny」「sunglass」……。10近い単語を挙げていく。先生は「good job（よくできました）」と繰り返した。

この後30分間、次から次へと英語の言葉遊びが続いた。テキストは使わない。単語の書かれた絵を示すほかは、言葉のやりとりだけ。途中でトイレに立つ子ども以外は、みな集中して聴いていた。

担任は、日本人の先生と2人一組。「朝の会」では、英語を話す先生が主導することになっている。子どもたちは日本語を使ってもいいが、この間、ほとんど日本語は聞かれない。先生はほぼ普通のスピードで話すが、記者のさびついた耳では、聞き取れない言葉がたくさんあった。きちんとやりとりできる子どもたちに、舌を巻いた。

●英会話教室が設立

園の周りは、サクランボやブドウなど果樹が並ぶ農業地域。そんな場所に同園が開園したのは、2008年4月のこと。昭和町の英会話教室「イングリッシュプラス」が設立した。

10年前、教室に2～3歳の幼児クラスを設けたところ、保護者から「幼稚園で英語教育を受けさせたい」との声があがった。現在、園のプログラミングマネジャーを務めるメロニー先生と、佐野麻由美副園長(47)が中心になってカリキュラムを検討。8年かけて準備を進め、認可外保育施設として出発した。

保育は年少、年中、年長の3年間（3～6歳）。市内に住む人のほか、甲府、韮崎、昭和など近隣市町や、遠くは笛吹市から計68人が通う。

●保育料は月5万円

娘が年少の小林里恵さん(41)＝南アルプス市＝は「教えられてではなく、自然に英語が耳に入っている。発音もきれい」と話す。進んで人とコミュニケーションをとるようになったという声も。年長に娘がいる横内広美さん(32)＝同市＝は「最初は恥ずかしがりだったのが、積極的になった」。

メロニー先生は「欧米の人が2～4カ国語を操るように、いくつかの言語は同時に学ぶことができます。特にこの年齢では、脳の神経の動きは活発。吸収が速いのです」と話した。

ただし、年少1クラス16人に先生が2人つくなど少人数保育のため、保育料は月約5万円。弟妹には減免があるが、多くの保育施設より高く、保護者にとっては懐が楽ではない。

伝える能力を育むのが目標

子供は2カ国語混同しない

川瀬るり子園長(46)に聞く

――ここでの英語教育の特色は

「教えるのではなく、生活や遊びを通してその言葉に浸り、異文化に親しんでいきます。ここで大事なのは先生との信頼関係。子どもたちは、外国人の先生に愛着を感じていくなかで、だんだんと相手の言葉を理解していきます」

――目指していることは

「一番大事なのは、伝える意思をもって話せること。英語は主語をはっきり言う言語だけに、あいまいにせず、きちんと自分の意思を話していかないといけない。それに外国人と話すことは子どもたちにとって、国籍、性別、年齢をはじめ多様性を認めることになる。みんな違っていていいんだと思うことで、互いをリスペクト（尊重）することになります」

「伝える喜びを感じてもらい、コミュニケーション能力を育むのが目標で、英語自体は（あくまで）副産物。ここでの生活でもれなくついてくる、と考えています」

――まだ日本語の不十分な子どもに外国語を教えることには異論もありますが

「子どもの認知能力は、大人の想像をはるかに超えた可能性を持っています。混同することはありません。学んでしばらくすると、『これは英語で何て言うの』と質問してきます。これは、子どもが日本語と英語を、きちんと区別している証拠です」

――小学校で英語が必修になります。どう考えますか

「単に中学校の授業を前倒しにするだけでは、中学に進んでから、英語に新鮮味を感じなくなってしまいます。まだ国の方針が見えてきませんが、教え方、教える内容に工夫が必要だと思います」